

ステップ	運 転 操 作	参 考 事 項	備 考
RC/Q-7.5	<p>代替注水系の起動手順</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. MUW系 (復水) <ol style="list-style-type: none"> (1) 復水移送ポンプを起動する。 (2) 現場の各洗浄水弁「開」を確認し、各注入弁のCSを「開」とする。 <ol style="list-style-type: none"> a. LPCI-A系注入弁 [MO-10-25A] b. LPCI-B系注入弁 [MO-10-25B] c. CS-A系注入弁 [MO-14-12A] (補6) d. CS-B系注入弁 [MO-14-12B] (3) RPV/PCV注入ライン流量調整弁 [MO-10-111]を「開」する。 2. MUW系 (復水) 使用できない場合、消火系 (FP) より注入する。 <ol style="list-style-type: none"> (1) FP-MUW連絡第一弁 [MO-79-1250]を「開」する。 (2) FP-MUW連絡第二弁 [MO-79-1251]を「開」する。 (3) M/D消火ポンプあるいはD/D消火ポンプを起動する。 (4) RPV/PCV注入ライン流量調整弁 [MO-10-111]を「開」する。 (5) (4)までで注水できない場合、下記のECCS系の注入ラインのうち注入可能なラインの洗浄水弁を「開」する。 <ol style="list-style-type: none"> a. RHR-A系 LPCI 注入ライン洗浄弁 [V-10-254, 255A] b. RHR-B系 LPCI 注入ライン洗浄弁 [V-10-254, 255B] c. CS系充水加圧 PCV バイパス弁 [V-14-751] 3. 消火系 <ol style="list-style-type: none"> (1) 消火系～給水ヘッダー連絡メガネフランジを「通水側」にする。 (2) 消火系～給水ヘッダー連絡弁を「開」する。 <ol style="list-style-type: none"> a. 消火系～給水ヘッダー連絡ラインドレン弁 [V-32-123-1, 123-2]の「閉」を確認する。 b. 消火系～給水ヘッダー連絡弁 [V-77-40, V-32-107-1, 107-2]を「開」する。 	<p>(補6) CS系開不能の場合、第2注入弁 [MO-14-11A, B]の開確認後下記ジャンパーをし第1注入弁 [MO-14-12A, B]を開する。</p> <p>(12A) PNL9-3 RE57Y02²⁵ク〜¹⁶シ</p> <p>(12B) PNL9-3 RE59Y02²⁵ク〜¹⁶シ</p> <p>(R/B 1FL パーソナルエアロック室上)</p> <p>(R/B 1FL パーソナルエアロック室上)</p> <p>(R/B 2FL 東側)</p> <p>(T/B 1FL ヒータルーム山側)</p> <p>(T/B 1FL ヒータルーム山側)</p>	<p>参考資料 〔参考 5〕 図 2</p> <p>参考資料 〔参考 5〕 図 3</p> <p>参考資料 〔参考 5〕 図 5</p>

ステップ	運 転 操 作	参 考 事 項	備 考
	<p>4. RHR 海水系</p> <p>(1) RHR-RHR 連絡メガネフランジを「通水側」にする。</p> <p>(2) RHR ポンプ B 又は D を起動する。(補 7)</p> <p>(3) RHR-RHR 連絡弁を「開」する。</p> <p>a. 格納容器海水浸水連絡ラインブロー弁 [V-10-288, 390] の「閉」を確認する。</p> <p>b. 格納容器海水浸水連絡弁 [V-10-285, 522] 「開」する。</p> <p>(4) RHR 注入弁 (LPCI) [MO-10-25A(B)] を「全開」する。</p> <p>水位低下及び減圧操作を行っている間に、全量のほう酸水が注入されたか、あるいは、全制御棒が全挿入又は、「02」(最大未臨界引抜き位置) まで挿入されたときは、S L C を停止し「スクラム」(RC) へ脱出する。</p>	<p>(補 7) RHR ポンプが起動できない場合でも原子炉圧力が低い場合は注水ラインを構成すればろ過水タンクの水頭圧差により雑用水系から原子炉へ注水することができる。</p> <p>(屋外主変圧器脇)</p> <p>(屋外主変圧器脇)</p>	<p>参考資料 (参考 5) 図 1</p> <p>解説 A-5</p>

3-2-16(RC/Q)